

上田 勉

東日本大震災から3年半 24万人 避難生活続く 原発、用地不足 再建阻む

「東日本大震災は、9月11日で発生から3年半となる。避難先で暮らす被災者は、岩手、宮城、福島3県を中心に全国24万5,622人に上る。この1年で4万4千人近く減ったものの、福島第1原発事故の長期化や、沿岸部での土地造成の遅れが住宅再建を妨げている。」

行方不明なお2,597人 震災関連死3,000人超す

「被災規模の大きい岩手、宮城、福島3県では計2,597人が行方不明のままとなっている。避難先などで亡くなる「関連死」が3県で3千人を超えるなど、震災被害は今も拡大し続けている。

震災に伴う被災3県の関連死は計3,097人。昨年同時期より350人増えた。県別では福島が1,758人（前年比296人増）と最も多く、宮城897人（25人増）、岩手442人（29人増）と続いた。関連死には持病の治療を十分に受けられずに亡くなったり、心の病で自殺したりする事例が含まれる。

福島第1原発事故の影響が続く福島では、被災者が帰還時期を見通せないストレスにさらされている。心身両面の継続的支援が不可欠となっている。」

子よ友よ安らかに 岩手県・大槌町一献花台に花、

「9月11日、東北の沿岸被災地は追悼の祈りに包まれた。親族や知人らが思い出の場所で手を合わせるなどして、犠牲者を偲んだ。

当時の町長、職員計40人が津波の犠牲になった岩手県大槌町旧役場庁舎。行方不明となっている町職員小笠原広樹さん＝当時（28歳）の母京子さん（55歳）と祖母スワさん（85歳）は、献花台に花を供えた。2人は月命日には必ず旧庁舎を訪れている。「3年半たっても、亡くなった実感が無くてね」と京子さん。スワさんは「ここに来れば孫に会えるような気がする」と声を詰まらせた。

旧庁舎は慰霊の場として定着したが、住民有志が設置したさい銭箱が何度も盗まれるトラブルに見舞われている。埼玉県から訪れた男性は「静かに手を合わせる場になってほしい」と気遣った。」

宮城県名取市閑上地区一慰霊碑 祈り

「約750人が犠牲になった名取市閑上地区では、市内のアルバイト佐藤完治さん（74歳）が、津波で亡くなった知人宅の跡地を訪れた。

佐藤さんは「雑草に覆われてしまうのは忍びない。知人の霊が帰って来られるようにしてあげたい」と、草むしりに汗を流した。

節目となったこの日、岩手県雫石町西根小の6年生10人が、修学旅行の一環で地区内を訪問。地元の語り部から津波の状況を聞いたり、閑上中にある慰霊碑に手を合わせたりした。」（「河北新報」9月12日付）

【職員 40 人が犠牲になった大槌町旧役場庁舎—正面の建物を残して解体（岩手県）】



【約 750 人が犠牲になった名取市閑上地区 閑上中学校の慰霊碑（宮城県）】

